

# 大阪経済大学 C館



外観

「大阪経済大学」は、1932(昭和7)年に創立した私立大学。大阪市内に主要キャンパスを擁する“都市型複合大学”であり、今回トイレ改修が行われたC館を含め、レンガ調で統一されたアカデミックな外観で設えている。



洗面コーナー

洗面コーナーには、手荷物にも配慮した奥行600mmのツインデッキカウンターを採用。上部の棚の奥行きが260mmあるため、水濡れを心配せずに荷物を置くことができる。



大便器ブース

大便器コーナーの通路は、男女のすれ違いに配慮し1500mmの通路幅を確保。全ブースに生理用品などが捨てられる汚物入れや呼出ボタンを設置している。



トイレ前通路

エレベーターや階段付近の開けた空間にオールジェンダートイレを新設。共用スペース付近に設置することで、男女を問わず使いやすさに配慮している。防犯対策として、トイレ前に360度防犯カメラを設置している。



スタイリングコーナー

スタイリングコーナーには、多様な荷物への配慮として2段の棚を設置。また、ヘアアイロンなどを使用できるように電源プラグを設けて、利便性を向上させている。鏡は顔映りのよいLED付照明鏡を採用している。



ひろびろブース

車いす使用者が利用できるひろびろブースを1ヶ所設け、L型手すりや跳ね上げ手すりを設置。多様な利用者を想定し、バリアフリーに配慮している。



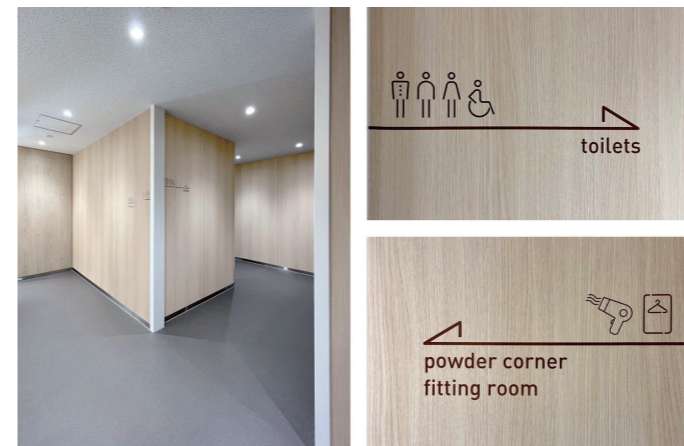
トイレサイン

トイレ入口に掲示しているサイン。ピクトサインは、男性・女性・男女を問わないことを明示する表現とし、補助表示として「All Gender Toilet」と記載している。



フィッティングルーム

学園祭やサークルでの着替え利用のため、学生からの要望のあったフィッティングルームを学内で初めて設置。防犯対策として、ルーム内には呼出ボタンを完備している。

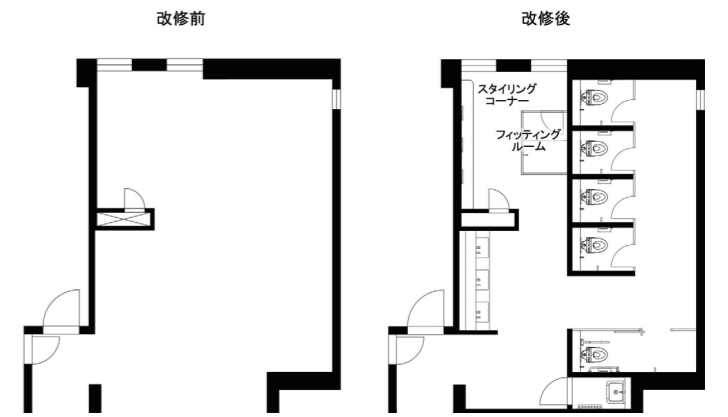


トイレ内通路

オールジェンダートイレを気軽に、より利用しやすくなるメリットを創出するため、通路幅を1300mm確保し、広くゆったりとした空間にしている。通路左奥はスタイリングコーナーへ、右奥は大便器コーナーへとつながる。

## オールジェンダートイレ図面

倉庫であったスペースをオールジェンダートイレに改修。元々、倉庫に改修される前はトイレだったため、給排水設備ルートが整っており、トイレの再整備に至った。



## 水まわりの特長

### 改修の経緯

「大阪経済大学」は、1932(昭和7)年に創立した私立大学。大阪市内に主要キャンパスを擁する“都市型複合大学”であり、建物は全体的にレンガ調で統一されたアカデミックな外観で設えている。C館は、全学部が使用する教室・講義棟。機能的な教室に加えて、1・2Fのラウンジや屋上庭園に学生がくつろげるフリースペースも整備されている。このたびC館の増築に伴い、トイレ改修が実施され、4F倉庫をオールジェンダートイレに改修。同スペースは、元々トイレだった場所が倉庫に改修されていたという経緯のため給排水設備ルートが整っていた。さらに、倉庫からの改修という状況からゼロベースで検討され、多様性配慮の時代の流れを汲み取った、オールジェンダートイレが完成した。

### 水まわりの特長

オールジェンダートイレを、C館4Fのエレベーターや階段付近の開けた共用スペースに設置することで、性別を問わない使いやすさに配慮。トイレの前に360度防犯カメラ、呼出ボタンはトイレ内に9ヶ所配置するなど、防犯対策を徹底している。また、オールジェンダートイレを気軽に、より利用しやすくなるメリットを創出するため、トイレ内の通路幅などの寸法を広く確保し、ゆったりとした空間を実現。洗面・大便器コーナー以外に、身だしなみ配慮の取り組みとしてスタイリングコーナーが設置され、男女を問わず活用されている。さらに、学園祭やサークルでの着替え利用のため、学生からの要望があったフィッティングルームを学内で初めて設置するなど、設備や機能を充実させている。

## 建築概要

名称	大阪経済大学 C館
所在地	大阪府大阪市東淀川区大隅2-2-8
施主	学校法人 大阪経済大学
設計	大成建設株式会社(改修工事)
施工	大成建設株式会社(改修工事)
竣工年月	(改修)2023年4月
階数	地上7階

## おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュバルブ式:CS494MJ  
 ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534  
 棚付二連紙巻器:YH701/ツインデッキカウンター(ボウルー一体タイプ):MKWE  
 フック:YKH22/LED照明付鏡(化粧照明タイプ):EL80016